

2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年 4月 28日

所属・職名	商経学部 教授	氏名	永井克昇
研究課題	情報活用能力の育成と主体的・対話的で深い学びについて		
研究キーワード	情報活用能力、資質・能力、主体的・対話的で深い学び、アクティブ・ラーニング、コンピテンシー・ベースの学力	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本研究の目的は、学習指導要領によって学習の基盤の一つとして位置付けられた情報活用能力を、授業等において身に付けさせる際の学習方法の在り方を考察することである。その際、次の2つの視点から研究を進めた。(1)情報活用能力を学習指導面から捉えるのではなく、育成を目指す資質・能力として捉え、分類・整理する。(2)アクティブ・ラーニングの本質について、主体的・対話的で深い学びの視点から整理する。</p> <p>(1)については、昨年度まで企画検証委員として参画した文部科学省委託事業「次世代の教育情報化推進事業（情報教育の推進等に関する調査研究）」の研究によって、情報活用能力を資質・能力として整理した体系表を作成することができた。</p> <p>(2)については、昨年11月に実施した本学の教職員対象のアクティブ・ラーニングに関するFD（講師：永井）の講義内容として整理することができた。</p> <p>(1)と(2)の内容を関連づけることによって、資質・能力としての情報活用能力を育成する際にアクティブ・ラーニングを取り入れることによって得られる成果と注意を要する留意点を明らかにすることができた。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>上記の内容を「アクティブ・ラーニングの本質と情報活用能力の育成」と題した研究論文にまとめ、今年度の千葉商科大学紀要又は論叢に投稿する予定である。なお、論文の主要なテーマの一つである情報活用能力の定義や育成のための学習活動の在り方については、昨年度まで企画検証委員として参画した文部科学省委託事業「次世代の教育情報化推進事業（情報教育の推進等に関する調査研究）」（2019年度で終了）の研究成果を参照しつつ、整理していく。</p> <p>3. 主な経費</p> <p>個人研究費のうち、旅費等については上記の研究内容に即した先行研究や関連研究及び先進事例を得るために学会や研究会への出席のために使用した。しかし、学内の用務のために出席することがままならなかった。今年度は、日程を調整し可能な限り出席したいと考えている。なお、書籍及び消耗品等については、上記の研究の遂行や論文の整理等の際に必要な書籍や消耗品等の購入にあてた。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>特記すべき事項はない。</p> <p style="text-align: right;">本文は<u>1ページ以内</u>にまとめること</p>			